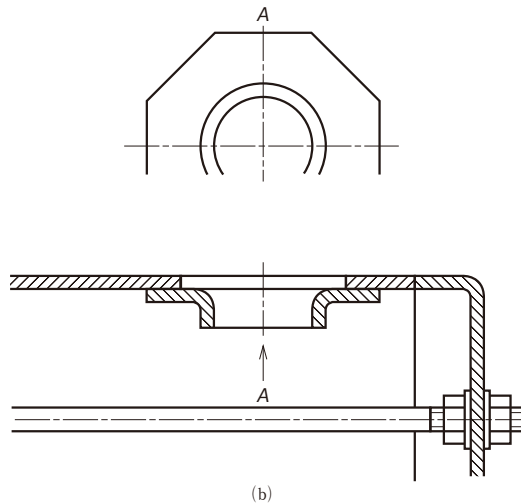


機械製図 [基礎編] 訂正のお知らせ

以下のように訂正いたします。

- 87 頁 『図 3-29 矢示法の例(2)』の (b) の図を、以下に差し替える。



- 133 頁 上から 8 行目 (⑧の文章) に、追記する。
～(CR)によって指示する。 → ～(CR)によって指示する(図 3-145)。直線と曲線の接合部分に凹凸がなく、滑らかにするとき用いる。
- 136 頁 上から 12 行目 (『(7) 円弧の長さの表し方』の①の文章)
～寸法数値の上^に円弧の～ → ～寸法数値の前^に円弧の～
- 138 頁 上から 2 行目 (②の文章)
～寸法数字と同じ大きさで～ → ～寸法数値と同じ大きさで～
- 140 頁 下から 3 行目 (⑤の文章)、141 頁 上から 2 行目にある「皿ざぐり穴」を示す記号 √ (計 2 カ所) を、以下に差し替える。



- 144 頁 上から 1～2 行目 (以下の文章) を同頁『(3) 穴のキー溝の表し方』③の文章の下に、図 3-176 を、図 3-178～180 の下に移動する。
④ キー溝が断面に現れている場合のボスの内径寸法は、片矢の端末記号で指示をする(図 3-180)。

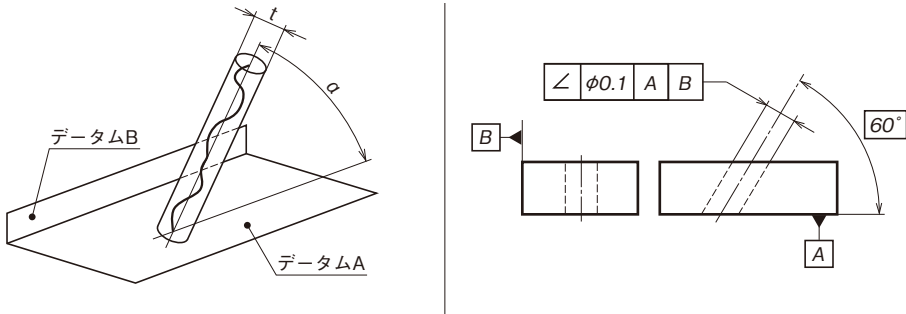
- 144 頁の図番号を、以下に変更する。

図 3-176 → 図 3-180
図 3-177 → 図 3-176
図 3-178 → 図 3-177
図 3-179 → 図 3-178
図 3-180 → 図 3-179

- 168 頁 『表 4-3 穴の寸法許容差』の表頭を、以下に差し替える。

穴の公差域クラス																	
H8	H9	H10	JS6	JS7	K6	K7	M6	M7	N6	N7	P6	P7	R7	S7	T7	U7	X7

- 194 頁 『表 4-16 幾何公差の公差域の定義及び図示例とその解釈⑤』の「11.2 データム平面に関連した直線の傾斜度公差」の図(2点)を、以下に差し替える。



- 217 頁 下から 8～7 行目(以下の文章) を削除する。

表面性状の要求事項(図示記号)を対象面に、できることならサイズ又は位置度的一方か両方が図示されている対象面に、1 回だけ指示する。

- 244 頁 『表 4-40 JIS 金属材料記号①』内の JIS 規格の年号を、以下に差し替える。

(左列、上から 3 段目) JIS G 3131 : 2010 → JIS G 3131 : 2010 (追補 : 2011)

(左列、上から 4 段目) JIS G 3141 : 2009 → JIS G 3141 : 2011

- 259 頁 『練習問題』 [1] の問題文

[1] 正面図(片側断面図)を描き、寸法記入及び表面粗さを入れなさい。表面粗さは JIS B 0031 : 2003 製品の幾何特性仕様(GPS) - 表面性状の図示方法に従って記入しなさい。



[1] 立体図から正面図(片側断面図)を描き、寸法記入及び表面性状の図示記号を記入しなさい。

- 259 頁 『練習問題』 [2] の問題文

[2] 立体図から①②③が組み立てられた正面図(全断面図)を描き、表面粗さを入れなさい。表面粗さは JIS B 0031 : 2003 製品の幾何特性仕様(GPS) - 表面性状の図示方法に従って記入しなさい。



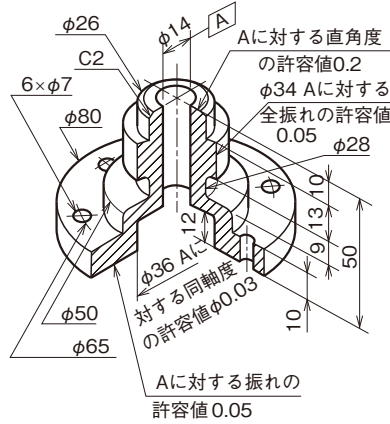
[2] 立体図から①②③が組み立てられた正面図(全断面図)を描き、表面性状の図示記号を記入しなさい。

● 259 頁 『練習問題』 [3] の問題文 並びに 図を、以下に差し替える。

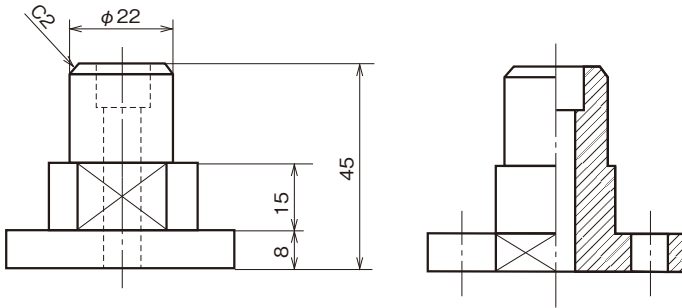
[3] 立体図を参照し、全断面図を完成し寸法を記入しなさい。なお、下記に従って寸法公差、はめあいの記号、表面粗さ、幾何公差を記入しなさい。



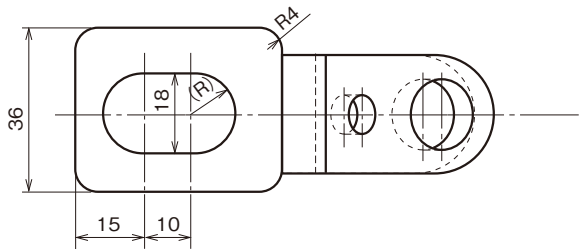
[3] 立体図を参照し、全断面図を完成し寸法を記入しなさい。なお、下記に従って寸法公差、表面性状、幾何公差を記入しなさい。



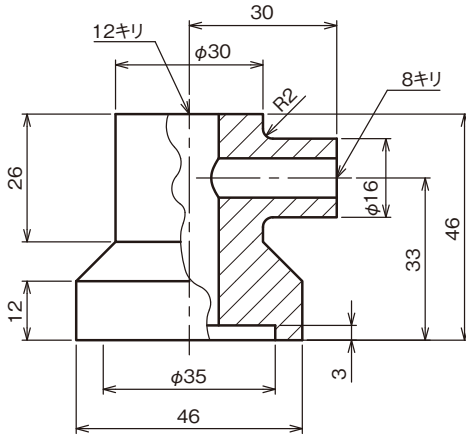
● 314 頁 『第3章の練習問題の解答』 [3] の下2点の図を、以下に差し替える。



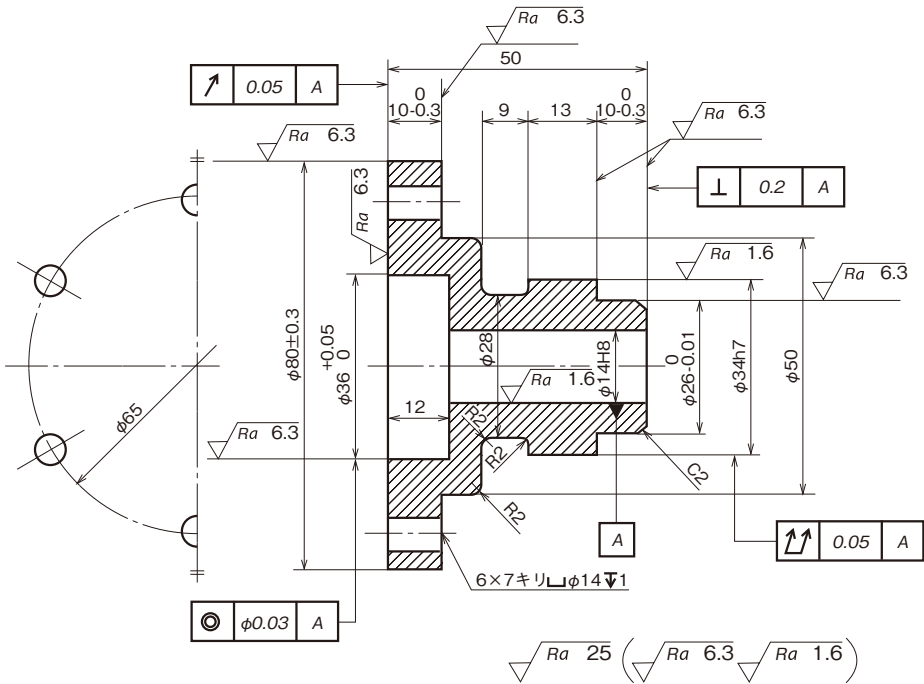
● 314 頁 『第3章の練習問題の解答』 [4] の上の図を、以下に差し替える。



● 315 頁 『第3章の練習問題の解答』 [5] の下の図を、以下に差し替える。



● 316 頁 『第4章の練習問題の解答』 [3] の図を、以下に差し替える。



● 321 頁 [は] の 8 行目

ハッチング..... 97
 ↓
 98